

「教育委員としての感謝の9年間」

前伊勢市教育委員会教育委員 中居 信明

平成29年（2017年）12月22日をもって教育委員を退任させていただくことになりました。平成20年（2008年）に教育委員に選任いただき、皆様には9年間大変お世話になりました。私自身、貴重な経験をさせていただき、人間として成長させていただけたことに心より感謝申し上げます。

振り返れば、長いようで短い9年間でした。在任中には、教育委員会での議論や学校訪問、教職員の方々との意見交換、そしてテーマに沿った先進県での現地視察や他県の教育委員会関係者の方々とのディスカッション、また教育行政に携わる諸先輩方に多くのことを学ばせていただいたことなど、私にとっては、貴重な経験はもとより、新たなフィールドを与えていただけたことに、重ねて感謝申し上げます。

私は、就任時には三重県住宅生協の理事長を務めさせていただいておりました。家づくりや街づくりという主たる職務と教育委員の二足のわらじを履くことになったのですが、「次の世代を担う子どもたちを育てる」という教育委員会の理念は、そのまま私の家づくりへの「こだわり」と「ミッション」とさせていただくことができましたし、多くの「気付き」がありました。子どもたちの「育ち」は、学校現場だけではなく、家庭や家族が担う部分が非常に大きいことに加え、家庭や家族の日常のコミュニケーションを大切にしなければならないことも教育委員会の活動の中から学ばせていただくことができました。

やがて巣立っていく子どもたちには、社会人として生きていくために必要な責任感や他人を思いやる心の優しさ、法やルールを尊ぶ公平観などを身に付けさせなければならないのです。

そして、知性を磨き、豊かな感性と創造性を培って、健康でたくましい子どもを育てる配慮が、家づくりそのものに必要であることも教えていただきました。今後もこれまでに得た知識や経験やスキルを大切にしていくとともに、伊勢市の教

育行政推進のために側面からサポートできればと考えています。

教育委員を務めさせていただいた間、私の好きな言葉で、大切にしてきた2つの言葉を書かせていただきます。

一つには「啐啄同時（そつたくどうじ）」という言葉です。

鶏の雛が卵から生まれ出ようとするとき、殻の中から卵の殻をつついて音をたてます。これを「啐」と言います。そのとき、すかさず親鳥が外から殻をついばんで破る、これを「啄」と言います。そしてこの「啐」と「啄」が同時であってはじめて、殻が破れて雛が産まれるわけです。これは鶏に限らず、この成長を見守るという目的を一にする教師と児童生徒、親と子の関係にも学ぶべき大切な言葉だと思います。

もう一つは次の言葉です。

「学ぶことは、変わることだ
明日への希望を発見することだ
心かえ行動かえて習慣に
それが人格、運命かえる」

学ぶことで、新しい出会いがある。学ぶことで、新しい知識を身付けることができる。学ぶことで、新しい気付きが与えられる。学ぶことで、新しい自分を発見することができる。という言葉です。

私にとっては、恵まれた仲間の皆さんとともに務めさせていただいた教育委員としての9年間でした。改めて感謝申し上げますとともに、在任中のご支援ご協力、さらにご指導ご鞭撻に感謝を申し上げ、お礼の挨拶にさせていただきます。

長い間お世話になりました。ありがとうございました。



「カウンセリングマインド向上研修」・「カウンセリングリーダー研修」を終えて

今年度新たにスタートした「子ども輝き生き生き総合推進事業」の取組の大きな柱の1つである「カウンセリングマインド向上研修」「カウンセリングリーダー研修」が終了しました。

この研修は、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、全ての教職員がよりよい相談相手となるためにカウンセリングマインドを向上させること、カウンセリングリーダーを中心として各校の教育相談活動を充実させることを目的に、鈴鹿医療科学大学と連携して実施してまいりました。

「カウンセリングマインド向上研修」は今年度11校で実施しました。鈴鹿医療科学大学の講師が校内研修に向き、各校の現状や要望に合わせて講義や演習を行いました。子ども（保護者）を見立て、理解し、関わるためのポイントや対応に困っている事柄の解決に向け、職員みんなで学ぶことができたこと、何より学校にいながらにして、研修を深めることができてよかったといった満足の声をたくさんいただきました。

＜受講校の取組の成果と課題＞

- 生徒との接し方、言葉がけなど、コミュニケーションのとり方が再確認できた。
- 子どもを理解するにあたって、いろいろな視点から見られるようになった。
- 教育相談月間やプチカウンセリングなど、気楽に相談できる雰囲気があり、生徒の気もちに寄り添った関わりをすることが以前よりできた。
- 学年団を中心に、管理職、養護教諭、生徒指導担当、クラブ担当、スクールカウンセラーなどが情報を共有し、チームとして指導を行うことができた。
- 家庭との連絡をできるだけとって、子どもの様子を伝えたり、家での様子を聞いたりしながら、保護者との関係をつくっていくことができた。
- 個々の児童を見ていくと、まだまだ不安を抱えている児童、友だち関係がうまくいかない児童などが配慮の必要な児童がいる。今後も研修で学んだことを生かしていきたい。
- 会議や研修をもつことも大切だが、時間的な余裕がないという現実がある。限られてはいるが、気軽に子どものことを話せる時間や雰囲気大切にしていきたい。

■ カウンセリングマインド向上研修 ■

＜平成29年度実施校（11校）＞

進修小、中島小、厚生小、神社小、大湊小
浜郷小、四郷小、城田小
豊浜中、北浜中、五十鈴中

＜平成30年度実施予定校（12校）＞

有緝小、早修小、明倫小、佐八小、宮山小
豊浜東小、豊浜西小、北浜小
厚生中、城田中、二見中、伊勢宮川中

＜平成31年度実施予定校（11校）＞

修道小、東大淀小、上野小、小俣小
明野小、御園小、二見浦小
倉田山中、港中、小俣中、御園中

さざ波のように優しく
粘り強く子どもたちに
向き合う支援者を目標
して…

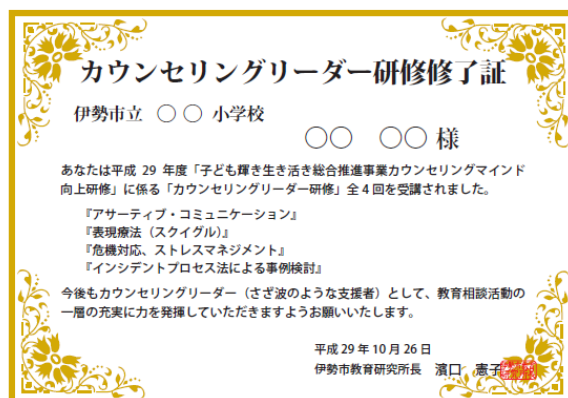


「カウンセリングリーダー研修」は、全4回実施しました。各校代表のリーダーとあって、カウンセリングに対する興味・関心はさすがに高く、毎回、熱心に学んでいただきました。

休まず受講された23名のリーダーに、「カウンセリングリーダー研修修了証」を発行させていただきました。今後も教育相談活動の一層の充実に力を発揮していただきたいと思います。

今年度、都合により全4回受講していただくことができなかったリーダーの方については、希望をとらせていただいたうえで、来年度中に受講完了ができるよう考えさせていただきます。

さらに、新たなリーダーにもご参加いただき、より多くの先生方に修了証をお渡しできるよう進めてまいります。



第1回 6/26(月)「カウンセリングの基本」

子どもをチームで支え、支援をつなげた成功事例やアサーティブコミュニケーションについて教えていただきました。また、エゴグラムの結果から、対人関係やコミュニケーションの傾向について学びました。

- アサーティブコミュニケーションとは自分も相手も大切にコミュニケーション。
- 支援者として自分のコミュニケーションの傾向を自覚することは、子どもにとっても、自身のメンタルヘルスを保つ上でも大切である。



第2回 7/25(火)「事例紹介・表現療法(スクイグル)」

前半は、子どもと担任との間で交わされる日記や宿題等による交流の効果を「表現を通した子どもとの関わり」という事例から考えました。

- 子どもの特徴の理解に役立つ→家庭環境の把握など
- 子どもの成長促進→言語表現能力の促進、自身の心の内外の観察、主体性向上
- 公(学校)私(家庭)の橋渡し機能
- 保護者への効果→教員としてもその都度家庭に報告する回数が減るため、負担減に!

後半は、ペアで交互になぐり描きをし、できあがった絵をもとに話をつくるワーク(スクイグル)をしました。絵の解釈となると専門的な知識も必要ですが、ワークを通して、子どもとの関係づくりや内面を引き出す効果が期待できそうです。



第3回 8/22(火)「危機対応について(自殺・事故の予防、対応)」

前半は、「学校における緊急支援と予防」として、いじめによる重大な事態、自殺、事故、自然災害等による危機的状況において、早期の段階で緊急支援に入ることの重要性や、日頃からの備えについて学びました。

- 緊急支援とは「児童生徒」「教職員」「学校」「地域」の安心・安全感の回復である。
- 学校組織の機能不全により冷静な判断や対応ができなくなる可能性がある。
管理職や教師も当事者であるという視点を持ち、教育委員会や外部の専門家のバックアップが大切である。
- 予防的な取組として、緊急支援体制を構築するとともに、安心・安全な場所づくり、支援を求める力や援助する力を育むこと、ストレスマネジメントやセルフケアがある。

後半は、こころのストレスを軽減するために、からだの緊張を緩め、楽にする「動作法」を学びました。ストレスマネジメントは大人や支援者にこそ必要な力です。



第4回 10/24(火)「事例検討(インシデントプロセス法)」

インシデントプロセス法は、出来事(インシデント)の背景や原因となる情報を聞いて、問題解決の方法を考えていくものです。参加者一人一人が主体的に参加でき、支援についての様々なアイデアを共有することができます。事例提供には神社小学校の濱口教諭にご協力いただきました。校内研修等でもぜひ取り入れてみてください。

<受講者アンケートより>

- 困り感のある児童に対して様々なアプローチの仕方があるのだと、この研修を受けて思いました。児童がみんな笑顔になれる学校をつくるためには、専門機関だけでなく、学校職員もカウンセリングできる環境が大切なのだと思いました。
- 子どもたちの数だけいろんなことが起こります。今後は、今回学んだことを活用したいと思います。私たちだけが受講するのはもったいないぐらいの研修です。
- 色々勉強させていただけてよかったと思います。知らなかったこともあり、こんな方法もあるのかと発見することもありました。学んだことすべてを学校にもち帰り、伝えられるかはわかりませんが、1つでも多くのことを還流できるようにしたいと思います。参加できてよかったと思います。
- 実際に話し合う場面があり、とても楽しく、そして興味深く研修を行うことができました。



9月29日(金) **デイキャンプ**

会場:ネットワークリゾートなんせい

南伊勢町の「ネットワークリゾートなんせい」で、デイキャンプを行いました。午前中は、野外での飯盒炊飯やカレー作りに挑戦し、午後からは、カヌーや釣りを体験しました。みんなで作ったご飯やカレーはとてもおいしかったです。最初は怖そうにしていたカヌーにもすぐに慣れ、楽しそうに手を振る姿が印象的でした。釣り体験では、なかなか魚が釣れませんでした。最後まであきらめずに一生懸命がんばっていました。青空のもと、素敵な思い出ができました。



11月24日(金) **みかん狩り**

会場:ないぜしぜん村

南伊勢町の「ないぜしぜん村」でみかん狩りを体験しました。五ヶ所湾に面した南向きの斜面で、自分たちでみかんを採り、お腹いっぱいになるまで食べました。

お昼はみかん畑の広がる山を登り、頂上ですばらしい景色を眺めながら、お弁当を食べました。最後は自分たちで採ったみかんをかごにしっかり詰め込んで、お土産として家に持ってかえました。



10月11日(水) **どんぐりプロジェクト植樹体験**

会場:横浜ゴム

平成28年度より、B&G『海を守る植樹教育事業』へ参加し、どんぐり拾いから、蒔き付け、ポット移植など、どんぐりをNESTで大切に育ててきました。横浜ゴム『千年の杜プロジェクト』にも参加し、その苗260株を贈呈しました。自分たちが育ててきたどんぐりとお別れするのは、少し寂しそうでした。どんぐりの苗が大きく育っていくようお願いを込めて、植樹にも参加しました。



12月16日(土) **調理体験**

会場:まごの店

五桂池ふるさと村にある「まごの店」で、相可高等学校食物調理科 村林 新吾先生と高校生にフランス料理とテーブルマナーを教えていただきました。ハンバーグやマッシュポテト、抹茶の



ロールケーキなど、高校生にも手伝ってもらいながら、一緒に作りました。フランス料理のフルコースは、とてもおい

しく、優雅な気分を味わうことができました。

11月16日(木) **トンボ玉作り**

会場:伊勢まなび高等学校

伊勢まなび高等学校のものづくり科の先生方のご指導で、トンボ玉作りに挑戦しました。実演を交えた説明を受けた後、製作に取り組みました。ガラス管が熱い間に手早く作業するのは難しかったですが、何個か作っているうちにコツをつかみ、きれいな色の個性あふれるトンボ玉ができました。



教育支援センターNESTでは、通級児童生徒一人一人の心がほぐれ、学校復帰に向けてエネルギーが充電できるよう、保護者や学校と連携して支援を進めております。

今後も日々の活動を充実させるとともに、体験活動を取り入れながら、子どもたちが新たな自分を発見したり、仲間と過ごすことの楽しさを実感したりできるよう支援の在り方を考えてまいります。

教育支援センター NEST の活動②

第2回不登校児童生徒支援委員会

1月16日(火)、二見生涯学習センターにて第2回不登校児童生徒支援委員会を開催しました。今回は、第1回に引き続き、皇學館大学教育学部 渡邊 賢二教授をお迎えして、「**子どもの自尊感情を考える**」という演題でご講演いただきました。



自尊感情の発達的变化、不登校との関係、生活体験との関連性などお話しいただき、実際に自尊感情尺度を使い、参加者が自分たちの自尊感情得点を計算する場面も設けられました。講演の最後には校区別のグループに分かれて、これまでに行った自尊感情を育む取組について意見交流を行いました。

不登校児童生徒支援委員会では、これまでも「不登校対策ハーモニーハート総合推進事業」の取組の1つとして、伊勢市における不登校児童生徒の現状を踏まえ、教育の大きな課題としてとらえ、研修を進めてきました。来年度は、新たな形で児童生徒、保護者の皆さんの具体的な支援方法について研修することを検討しております。

<渡邊先生のお話より>

- 自尊感情は発達的に変化し、中学生の頃が1番低い。特に中学生から高校生にかけて女子が低くなる。
- 子どもの自尊感情は、親の自尊感情、教師の自尊感情に大きく関係する。
- 自尊感情には、小さな頃から積み上げる比較的安定した「**特性自尊感情**」と、現時点の自分に対する変動制のある「**状態自尊感情**」がある。ただし、きちんと『**ほめる**』ことをしてあげれば、「状態」から「特性」に移行し、安定した自尊感情になる。
- 自尊感情が低い子どもは、**生活体験**や遊び体験が乏しい。
- 自尊感情を育てるために学校での**共有体験**が大切である。
- できるだけ**具体的に**繰り返し『**ほめる**』ことが、子どもの力になる。

<参加者アンケートより>

- 自尊感情や自己効力感など、似た言葉の違いも知れてよかった。自尊感情を高める取組について共有する時間があってよかった。
- 教員の自尊感情が学級経営やQ-Uに強く影響するということを知れて勉強になった。
- 「授業がわかることが子どもたちの一番の喜び」というお話。教科の授業を通して、子どもたちの自尊感情を高めていきたいと思います。
- 子どもの様子をさらにしっかり見つけ、「分かった、できた」と思える体験を増やしたい。
- 食生活が自尊感情に関連することが印象に残っている。親子関係・夫婦間愛情関係にも影響することが分かり、自分も気をつけていこうと思った。
- 今後もこういう機会を持っていただき、研修していきたいです。校区での話し合いはよかったです。(こういう機会が少なかったのです)



自尊感情を育む「学級経営」のヒント

- ①教師が権威的に接することではなく、人間味のある接し方をすること
- ②子どもの話を聴き、話に共感すること
- ③「できない」ではなく、「できる」という肯定的な見方をすること
- ④目指す学級像を語り、それがもたらす結果を子どもたちに伝えること
- ⑤受容的態度で子どもと接すること
- ⑥子ども同士の良好な人間関係づくりを進めること

(渡邊教授の講演会スライドより)

例：「掃除が上手だね。」
よりも…
「ほうきの使い方が上手だね。」



小中学校における教育情報セキュリティの動向について

H27 年度に佐賀県で起きた生徒による学校ネットワークへの侵入、情報漏洩事件を受けて、各自治体の学校のネットワークセキュリティへの向上が求められるようになりました。

昨年 10 月には、文部科学省より「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」が公表されました。

ガイドラインは、「地方公共団体が、設置する学校を対象とする情報セキュリティポリシーの策定や見直しを行う際の参考となるよう、学校における情報セキュリティポリシーの考え方及び内容について解説したもの」であり、教育情報セキュリティの考え方が示されています。

【教育情報セキュリティの考え方】

- (1) 組織体制を確立すること
- (2) 児童生徒による機微情報※へのアクセスリスクへの対応を行うこと
- (3) インターネット経由による標的型攻撃等のリスクへの対応を行うこと
- (4) 教育現場の実態を踏まえた情報セキュリティ対策を確立させること
- (5) 教職員の情報セキュリティに関する意識の醸成を図ること
- (6) 教職員の業務負担軽減及び ICT を活用した多様な学習の実現を図ること

上記 6 つの考え方に基づいて情報教育を推進するのは主に設置者（伊勢市）です。しかし、特に「(2)児童生徒による機微情報へのアクセスリスクへの対応」については、伊勢市小中学校の全教職員の皆さんに意識していただき、リスクをなくす取組をお願いしたいと考えます。

具体的な対応方法としては、

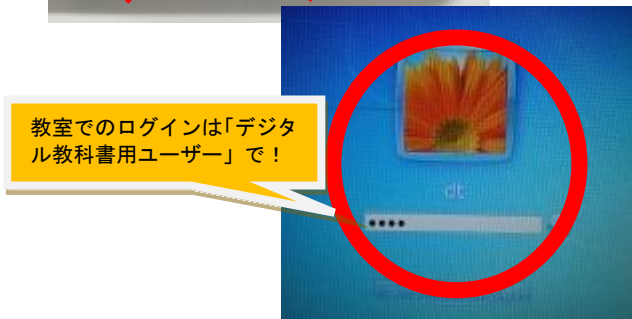
- ①使用するパソコンに、「ユーザー名：〇〇〇〇、パスワード：××××」という付箋を貼らない。
- ②自身のパスワードは、初期パスワードから切り替える。
- ③教室でパソコンを使用する際に、「デジタル教科書用ユーザー」以外でログインしない。

といったことが、挙げられます。

また、今後、共有フォルダの市内統一規格の適用やアクセス制限のルール設定、インターネットへの接続制限などが、教育情報セキュリティ向上のために必要となってくると考えられます。

さらに、「(6)教職員の業務負担軽減及び ICT を活用した多様な学習の実現を図ること」を実現するためには、使いやすいシステムの構築に、研究所情報教育係として取り組んでいかなければなりません。その核として、今年度新たに有緝小学校と早修小学校に研究を委託した「スクールイノベーション総合推進事業」を来年度以降も充実させていきたいと考えます。

※機微情報＝児童・生徒の個人情報、指導要録、通知表、成績一覧、会計簿 等



【情報教育係長兼指導主事 山本 充】

◆◆ 編集後記 ◆◆

今年度の新規事業・研修として、「スクールイノベーション総合推進事業」、「カウンセリングマインド向上研修」「カウンセリングリーダー研修」を進めてまいりました。それぞれに皇學館大学、鈴鹿医療科学大学との連携事業として、教育研究所がこれまでに取り組んだことのない形で研究に臨みました。これまでの成果と課題をふまえ、来年度さらに充実したものにできるよう、努めてまいります。